

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7248570号

(P7248570)

(45)発行日 令和5年3月29日(2023.3.29)

(24)登録日 令和5年3月20日(2023.3.20)

(51)国際特許分類

B 6 5 D 77/06 (2006.01)

F I

B 6 5 D 77/06

H

B 6 5 D 77/06

K

請求項の数 17 (全16頁)

(21)出願番号	特願2019-516032(P2019-516032)	(73)特許権者	518426343
(86)(22)出願日	平成29年6月2日(2017.6.2)		リキッド インテレクト インターナショ
(65)公表番号	特表2019-517445(P2019-517445		ナル ピーティーワイ リミテッド
	A)		L I Q U I D I N T E L L E C T I N
(43)公表日	令和1年6月24日(2019.6.24)		T E R N A T I O N A L P T Y . L T
(86)国際出願番号	PCT/AU2017/050533		D .
(87)国際公開番号	WO2017/205930		オーストラリア国、ビクトリア 3 1 9
(87)国際公開日	平成29年12月7日(2017.12.7)		3、ブラックロック ピーオーボックス
審査請求日	令和2年6月1日(2020.6.1)		6 6 2
(31)優先権主張番号	2016902143	(74)代理人	100109380
(32)優先日	平成28年6月3日(2016.6.3)		弁理士 小西 恵
(33)優先権主張国・地域又は機関	オーストラリア(AU)	(74)代理人	100109036
			弁理士 永岡 重幸
		(72)発明者	ボウケ、ダミアン
			オーストラリア国、ビクトリア 3 1 9
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 パッケージ

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

カートンおよび可撓性バッグを備えて流動性製品を封入するパッケージであって、

前記可撓性バッグは、前記流動性製品を吐出する吐出用出口を有し、

前記カートンは、折り曲げ線により区分けされた部分を有するシート材で構成された 1 枚のシートのブランクからなり、前記ブランクは、前記折り曲げ線で折り曲げられると前記カートンの前部パネル、後部パネル、上部パネル、底部パネルおよび側部パネルを形成し、前記カートンの前記前部パネルは、外壁と、当該外壁のエッジから延びる少なくとも 1 つのフランジとを有し、前記フランジは前記外壁の後方に曲げられると、前記外壁から隔てられた内壁を形成し、前記内壁の一方の面は、前記カートン内で前記可撓性バッグを位置付けるための第 1 のキャビティを規定し、前記内壁の反対の面は、前記内壁と前記外壁の間に形成された第 2 のキャビティを規定し、

前記内壁は、前記吐出用出口の本体がその内部に位置付けられる開口を有し、

これにより、前記吐出用出口の外端部が、前記第 2 のキャビティ内に位置し、

前記外壁は、前記第 2 のキャビティ内に通じて前記吐出用出口を露出させてそれへのアクセスを提供する取り外し可能な領域を含む、
ことを特徴とするパッケージ。

【請求項 2】

前記取り外し可能な領域は、少なくとも部分的に、前記外壁内にある、

ことを特徴とする請求項 1 に記載のパッケージ。

10

20

【請求項 3】

前記取り外し可能な領域は、完全に前記外壁内にある、
ことを特徴とする請求項 1 に記載のパッケージ。

【請求項 4】

前記取り外し可能な領域は、部分的に前記外壁内にあり、部分的に、前記外壁に横行するさらなる外壁内にある、

ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のパッケージ。

【請求項 5】

前記カートンの前記外壁の 1 つは、前記第 1 のキャビティ内に通じて前記可撓性バッグを露出させてそれへのアクセスを提供する、さらなる取り外し可能な領域を有する、

ことを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載のパッケージ。

10

【請求項 6】

前記取り外し可能な領域は、取り外しを補助するミシン目を有する、
ことを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載のパッケージ。

【請求項 7】

前記内壁は、前記内壁の前記開口で前記吐出用出口の前記本体を保持する固定手段を有する、

ことを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載のパッケージ。

【請求項 8】

前記吐出用出口は吐出口である、

ことを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載のパッケージ。

20

【請求項 9】

前記吐出用出口は、取り外し可能なキャップにより閉止可能である、
ことを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載のパッケージ。

【請求項 10】

前記吐出用出口は、取り外し可能なバルブにより閉止可能である、
ことを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載のパッケージ。

【請求項 11】

前記バルブは、前記可撓性バッグの前記吐出用出口上に取り付けられるよう配置される開放端部を有する管状部材を有し、前記可撓性バッグの内容物を前記管状部材へ流入させ、
前記管状部材の内部には横行壁が設けられ、前記横行壁は、可撓性のダイヤフラムと吐出開口とを有し、

30

前記吐出開口は、通常、前記可撓性のダイヤフラムにより閉止され、

前記可撓性のダイヤフラムには、前記横行壁の外側上に側方に延長して前記可撓性のダイヤフラムに接続するレバーが設けられ、前記レバーは、前記ダイヤフラムを、前記可撓性のダイヤフラムが前記吐出開口を密閉状態で閉止して前記内容物が前記可撓性バッグから出るのを阻止する位置と、前記可撓性のダイヤフラムが前記吐出開口から取り除かれて前記可撓性バッグの前記内容物がこれにより出ることを許容する位置との間で変位でき、

前記開放端部は、ネジ式接続により前記吐出用出口に取り付け可能に配置される、

ことを特徴とする請求項 10 に記載のパッケージ。

40

【請求項 12】

前記開放端部は、前記吐出用出口に直接取り付けられる、
ことを特徴とする請求項 11 に記載のパッケージ。

【請求項 13】

前記開放端部は、前記吐出用出口に、前記管状部材に結合されるネジ式管状接続片を解して取り付けられる、

ことを特徴とする請求項 11 に記載のパッケージ。

【請求項 14】

請求項 1 から 13 のいずれか 1 項に記載のパッケージから流動性製品を吐出する装置であって、

50

前記装置は前記パッケージを受容するよう構成されて、冷却または加熱手段を備え、
前記冷却または加熱手段は、前記パッケージ内の前記可撓性バッグの内容物を冷却または加熱するよう配置され、
前記装置は、前記パッケージを受容する構造を有し、
前記冷却または加熱手段は、前記構造に受容された際に、前記パッケージの前記第 1 のキャビティ内に突出するよう配置される隆起した冷却または加熱部分を備え、これにより、前記隆起した冷却または加熱部分は、前記パッケージ内のアクセス開口を介して、前記可撓性バッグと接触可能となる、
ことを特徴とする装置。

【請求項 15】

10

請求項 1 から 13 のいずれか 1 項に記載のパッケージから流動性製品を吐出する装置であって、
前記装置は、前記パッケージを受容するよう構成されて、前記パッケージの前記吐出用出口を介して前記パッケージに接続可能であり、引き出される前記流動性製品を、前記装置の前記吐出用出口へ供給するポンプ手段を有し、
前記装置は、前記引き出される流動性製品を冷却または加熱する冷却または加熱手段をさらに備える、
ことを特徴とする装置。

【請求項 16】

20

前記装置は、前記ポンプ手段および少なくとも 1 つのパッケージおよびドアを受容するよう構成される筐体をさらに備え、
前記ドアは、開放可能で、前記パッケージの取り外しおよび挿入を許容する、
ことを特徴とする請求項 15 に記載の装置。

【請求項 17】

前記少なくとも 1 つのパッケージは、前記筐体の下方部分に収容され、前記装置の前記吐出用出口は、前記装置の上方部分にある、
ことを特徴とする請求項 16 に記載の装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

30

本発明は、パッケージに関し、特に、カートン(carton)、および吐出出口(spout)を備える可撓性バッグ(flexible bag)を有するパッケージに関する。

【背景技術】

【0002】

19 リットルまでの容量を有する大型樹脂製ウォーターボトルは、飲料水を職場等へ供給するため使用される。これらの樹脂製ボトルは、効率的に積み重ねることができず、大型の特別注文のラック(racks)で輸送されなければならない。いったん使用されると、ボトルは、洗浄のためリサイクル工場へ送り返され、空であっても満杯であってもほぼ同一の輸送費を必要とする。

これらのボトルのための洗浄プロセスは、約 5 リットルの過熱水および化学薬品を必要として追加的コストを付加し、さらなる水の使用も必要とし、環境問題を引き起こす。ボトルは高価であり、破損したまたは置き換えられた(mis-placed)ボトルは、顧客のコストで交換されなければならない。さらに、典型的な場合ならそうであろうように、冷却およびウォーターサーバ(water dispensing)システムとともに使用される場合に、空のボトルを満杯に交換する際、ボトルは重く、扱い難い(awkward)。

40

【0003】

非公式にバッグ・イン・ボックス(bag-in-box)として知られる、吐出出口を備える可撓性折り畳み式(collapsible)バッグを収容するダンボールカートン(cardboard cartons)は、飲料水を貯蔵および吐出(dispense)するのにも使用されることができ、貯蔵のため必要とされる領域(面積)は、典型的には、上述の大型樹脂製ボトルの領域より顕著に小さい

50

であろう。カートン中のフラップ（蓋）(flap)として知られるミシン目（目打ち線）領域(perforated area)は、取り外されて、吐出口にアクセスすることができる。しかしながら、ユーザは、いったん吐出口フラップが取り外されると、吐出口を位置付ける（見つける）ことが困難になるかもしれない。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明の実施形態は、例えば水等の流動性製品(flowable product)を吐出する従来のシステムの1つ以上の欠点を、解決、または少なくとも改良することを目的とするものである。

10

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明の第1の態様によれば、カートン(carton)および可撓性（柔軟性）バッグ(flexible bag)を備え、流動性製品を封入(contain)するパッケージが提供される。このバッグは、流動性製品を吐出する吐出用出口(dispensing outlet)を有し、このカートンは、一方の側の壁に対して、カートン内でバッグを位置付ける(locating)ための第1のキャビティ(cavity)を規定する内壁を有する。

この内壁は、吐出用出口の本体(body)がその内部に位置付けられる(located)開口を有し、これにより、吐出用出口の外端部が、カートンの内壁の反対側と、隣接する(adjacent)外壁との間に規定される第2のキャビティ内に位置する。このカートンは、第2のキャビティ内に通じて(leading into)、吐出用出口を露出させてそれへのアクセスを提供する取り外し可能な領域(removable area)を含む。

20

【0006】

好適な実施形態によれば、取り外し可能な領域は、少なくとも部分的に、隣接する外壁内にある。好適には、取り外し可能な領域は、完全に、隣接する外壁内にある。好適には、取り外し可能な領域は、部分的に、隣接する外壁内にあり、部分的に、第1の上記隣接する壁に横行する(transverse to)さらなる（追加的）外壁内にある。

【0007】

好適な実施形態によれば、カートンの外壁の1つは、第1のキャビティ内に通じるさらなる取り外し可能な領域を有し、バッグを露出させてそれへのアクセスを提供する。

30

【0008】

好適な実施形態によれば、取り外し可能な領域は、少なくとも1つの指用開口(finger opening)を備える。好適には、さらなる（追加的）取り外し可能な領域は、指用開口を備える。好適には、取り外し可能な領域および/またはさらなる取り外し領域は、取り外しプロセスを補助するミシン目（目打ち線）(perforations)を有する。好適には、外壁の1つは、さらなる取り外し可能な領域の対向する側(opposing sides)から延長するミシン目（目打ち線）を有して、バッグを取り外すことを補助する(assist in)。

【0009】

好適な実施形態によれば、カートンは、内壁の開口で、吐出用出口の本体を保持するための固定手段を有する。

40

【0010】

好適には、吐出用出口(dispensing outlet)は、吐出口(spout)である。より好適には、吐出用出口は、取り外し可能なキャップを有する。

【0011】

ある実施形態において、吐出用出口は、取り外し可能なバルブによって閉止可能である。バルブは、タップ(tap)であってよい。

【0012】

ある実施形態によれば、取り外し可能なバルブは、可撓性バッグの吐出用出口上に取り付けられるよう配置される開放端部(open end portion)を有する管状部材を有して、バッグの内容物を管状部材へ流入させる。管状部材の内部は、可撓性（柔軟性）ダイヤフラ

50

ム(diaphragm)および吐出開口を含む横行壁(transverse wall)を有し、この吐出開口は、通常、可撓性ダイヤフラム、および壁の外側上に側方に延長し、可撓性ダイヤフラムに接続されるレバーにより閉止されて、ダイヤフラムを、可撓性ダイヤフラムが吐出開口を密閉状態で閉止して、内容物がバックから出ることを阻止する位置と、可撓性ダイヤフラムが吐出開口から取り外されて、バッグの内容物がこれにより出ることを許容する位置との間で変位させる。ここで、開放端部は、ネジ式接続(threaded connection)により吐出用出口に取り付け可能に配置される。

【 0 0 1 3 】

ある実施形態によれば、開放端部は、吐出用出口に直接取り付けられる。

【 0 0 1 4 】

ある実施形態によれば、開放端部は、管状部材に結合されるネジ式管状接続片を介して、吐出用出口に取り付けられる。

【 0 0 1 5 】

吐出用出口は、バルブを有してよい。好適な実施形態において、吐出用出口は、一体化されたバルブを有する取り外し可能なキャップを有する。一例として、バルブは、タップ(tap)であってよい。

【 0 0 1 6 】

本発明の第2の態様によれば、上記のパッケージから流動性製品を吐出しおよび冷却するための装置が提供される。この装置は、冷却または加熱手段を有し、この冷却または加熱手段は、パッケージ内のバッグの上記内容物を冷却または加熱するように配置される。

【 0 0 1 7 】

好適には、この装置は、パッケージを受容する構造を有する。ここで、冷却手段は、この構造により受容された際に、パッケージの第1のキャビティ内に突出するように配置される隆起した(raised)冷却または加熱部分を備え、これにより、隆起した冷却部分は、パッケージ内のアクセス開口を介して、バッグと接触可能となる。

【 0 0 1 8 】

好適には、アクセス開口は、さらなる(追加的)取り外し可能な領域を取り外すことにより提供される。

【 0 0 1 9 】

本発明の第3の態様によれば、上記のパッケージから流動性製品を吐出する装置が提供される。この装置は、吐出用出口を介してパッケージに接続可能であり、パッケージから引き出される(取り出される)(drawn)流動性製品を、装置の吐出用出口へ供給する(搬送する)ポンプ手段を有する。

【 0 0 2 0 】

好適な実施形態によれば、この装置は、引き出された流動性製品を冷却する冷却手段を有してよい。この装置は、引き出された流動性製品を加熱する加熱手段を有してよい。

【 0 0 2 1 】

好適には、この装置は、ポンプ手段および少なくとも1つのパッケージを収容する(house)よう構成された筐体(enclosure)を有する。筐体は、ドアを有してよく、このドアは、開放可能で、パッケージの取り外しおよび挿入を許容する。

【 0 0 2 2 】

好適には、少なくとも1つのパッケージは、筐体の下方部分に収容され、装置の吐出用出口は、装置の上方部分にある。この装置は、フロア取り付け可能(floor-mountable)であってよい。この装置は、自立型(free-standing)であってよい。

【 0 0 2 3 】

本発明の第4の態様によれば、上記の装置および上記のパッケージを有する、流動性製品を冷却するためのシステムが提供される。

【 0 0 2 4 】

本発明の第5の態様によれば、可撓性(柔軟性)バッグに封入流動性製品を吐出するバルブが提供される。このバルブは、可撓性バッグの吐出用出口上に取り付けられるよう配

10

20

30

40

50

置される開放端部を有する管状部材を有し、バッグの内容物を管状部材内に流入させる。管状部材の内部は、可撓性（柔軟性）ダイヤフラム、および吐出開口を含む横行壁を有し、この吐出開口は、通常、可撓性ダイヤフラムおよびレバーにより閉止される。このレバーは、壁の外側上に側方に延長し、可撓性ダイヤフラムに接続されて、ダイヤフラムを、可撓性ダイヤフラムが吐出開口を密封状態で閉止して内容物がバッグから出ることを阻止する位置と、可撓性ダイヤフラムが吐出開口から取り除かれてバッグの内容物がこれにより出ることを許容する位置との間で変位させる。開放端部は、ネジ式接続により吐出用出口に取り付け可能に配置される。

【 0 0 2 5 】

ある実施形態によれば、開放端部は、吐出用出口に直接取り付けられる。

10

【 0 0 2 6 】

ある実施形態によれば、開放端部は、管状部材に結合されるネジ式管状接続片を介して、吐出用出口に取り付けられる。

【 0 0 2 7 】

以下、本発明を、非限定的な例示的实施形態としてのみ、添付図面を参照して、詳細に説明する。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 8 】

【図 1】図 1 は、本発明の、好適な実施形態に係るパッケージの斜視図である。

【 0 0 2 9 】

20

【図 2】図 2 は、図 1 のパッケージの部分的に開放するカートンの斜視図である。

【 0 0 3 0 】

【図 3】図 3 は、図 2 のカートン中の吐出口のカートン内からの斜視図である。

【 0 0 3 1 】

【図 4】図 4 は、図 3 の吐出口の開放端のカートン外からの斜視図である。

【 0 0 3 2 】

【図 5】図 5 は、図 1 のパッケージから流動性製品を吐出するユーザの斜視図である。

【 0 0 3 3 】

【図 6】図 6 は、本発明の実施形態に係る、図 1 のパッケージから流動性製品を吐出する装置の斜視図である。

30

【 0 0 3 4 】

【図 7】図 7 は、図 6 の装置上の図 1 のパッケージの斜視図である。

【 0 0 3 5 】

【図 8】図 8 は、本発明の他の実施形態に係る、図 5 のパッケージから流動性製品を吐出する装置の斜視図である。

【 0 0 3 6 】

【図 9】図 9 は、図 1 から図 4 のカートンを形成するのに使用可能な例示的ブランクを示す図である。

【 0 0 3 7 】

【図 10】図 10 は、一体化された支持部と取り外し可能なキャップを有する吐出口の、一体化されたタップが図 1 のパッケージとともに使用された状態の実施形態を示す図である。

40

【 0 0 3 8 】

【図 11】図 11 a から図 11 c は、代替的な取り外し可能バルブが図 1 のパッケージと共に使用された第 1 の実施形態の、それぞれ斜視図、分解図、および断面図である。

【 0 0 3 9 】

【図 12】図 12 a から図 12 c は、代替的な取り外し可能バルブが図 1 のパッケージと共に使用された第 2 の実施形態の、それぞれ斜視図、分解図、および断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 4 0 】

50

図 1 から図 5 を参照して、カートン 4 が示され、カートン 4 は、液体 8 を封入する(contain)可撓性(柔軟性)バッグを受容するよう構成される。このバッグは、吐出口(spout)としても参照され得る、液体 8 を吐出する吐出用出口(dispensing outlet) 10 を有し、これにより、カートン 4 およびバッグは、本発明の好適な実施形態に係る、液体を封入および吐出するパッケージ 2 を規定する。

【 0 0 4 1 】

このバッグは、貯蔵および吐出を必要とする流動性製品とともに使用されるのに好適な、実質的に不透水性(impermeable)材料で形成される従来の可撓性バッグであってよい。流動性製品は、重力下で容易に流れる種類の乾燥状態(dry)または液体の流動性製品を含んでよい。液体の流動性製品の例は、例えば化粧品、インク、塗料、溶剤(solvents)、接着剤等の化学製品または科学的(chemically based)製品、およびオイル、飲料、および醤油、フィッシュソース、酢等の調味料などの液体消費物品を含む。乾燥状態の流動性製品の例は、例えば洗剤、塩、砂糖、または穀物等の粉末状または粒状材料を含んでよい。一例として、本実施形態は、液体を封入および吐出するものとして記載されるが、当業者であれば、本実施形態が、あらゆる好適な流動性製品と共に使用可能であることを理解するであろう。このバッグは、あらゆる所望の容量を受容するサイズにされ得るが、これらの実施形態では、バッグは、10 から 15 リットルの容量を有することができる。従って、カートン 4 は、このバッグを受容するサイズにされる。

【 0 0 4 2 】

カートン 4 は、内壁 12 を有し、内壁 12 は、その片側の壁に、カートン 4 内でバッグを位置付ける(locating)ための第 1 のキャビティ 13 を規定する。内壁 12 は、吐出口 10 の本体 16 が位置付けられる開口 14 を有し、これにより、吐出口 10 の外端 18 は、カートン 4 の反対側の内壁 12 と、隣接する(adjacent)外壁 22 との間に規定される第 2 のキャビティ 20 内に位置する(lies within)。

カートン 4 は、第 2 のキャビティ 20 内に通じる(leading into)取り外し可能な領域 24 を有して、吐出口の外端 18 を露出させてそれへのアクセスを提供する。これにより、ユーザは、一旦取り外し可能な領域 24 が取り外されると、第 2 のキャビティ 20 内に吐出口の外端 18 を容易に位置付けることができるという利点が提供される。

さらに、ユーザが、取り外し可能な領域 24 を取外すのに鋭利な物体を使用する場合、吐出口の外端 18 が内壁 12 によりバックから分離されているので、バッグが鋭利な物体により突き刺されるおそれが遥かに低くなる。

【 0 0 4 3 】

ここに開示される実施形態において、取り外し可能な領域 24 は、部分的に、隣接する外壁 22 内にある。取外し可能な領域 24 はまた、隣接する外壁 22 に横行する(transverse to)さらなる(追加的)外壁 26 内にあってもよい。これにより、吐出口の外端 18 への容易なアクセスが提供される。一例として、取り外し可能な領域 24 は、完全に、隣接する外壁 22 内にあってよい。

【 0 0 4 4 】

図 3 および図 4 を参照して、内壁 12 の開口 14 は、吐出口本体 16 の部分が嵌合で(fittingly)受容され得る凹部 28 を有する。内壁 12 は、吐出口本体 16 を凹部 28 内へ固定する固定手段を有してよい。固定手段は、内壁 12 内で支持部 30 として規定されてよい。

支持部 30 は、吐出口本体 16 と、内壁 12 の隣接端との間に延長して、凹部 28 および支持部 30 が吐出口本体 16 を周方向に(circumferentially)包囲するよう配置される。支持部 30 は、それ自体、内壁 12 内に、例えば接着剤により締結(fastened)されてよい。これにより、吐出口本体 16 は、パッケージ 2 の方向にかかわらず、内壁 12 内にしっかりと固定されて保持される。好適な実施形態において、支持部 30 および吐出口本体 16 は、図 10 に示すように、単一ユニット 31 として形成されてよい。このため、ユーザは、カートン 4 内部に手を伸ばして、吐出口外端 18 を見つけてこれを使用するため再度方向付ける必要がない。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 5 】

吐出口外端 18 は、取り外し可能なキャップ 32 または取り外し可能なバルブ 34 を有してよい。図 3、図 4、および図 7 に示す実施形態によれば、キャップ 32 は、ねじ(ねじ山)(screw and thread)配置によって取り付け可能であってよく、対応する取り外し可能なタップ(tap) 34 は、キャップ 32 と交換されて液体 8 を吐出してよい。

代替的に、図 5 に示すように、液体 8 は、吐出口 10 を介して、タップ 34 を使用せずに、パッケージ 2 から直接吐出されてよい。図 3 および図 4 において、第 2 のキャビティ 20 は、キャップ 32 の高さを収容するようなサイズとされるが、第 2 のキャビティ 20 は、タップ 34 を収容して、バッグに固定されるように、または例えば取り外し可能なタップまたはバルブのように(図 7、図 11a から図 11c、図 12a から図 12c 参照)バッグから取り外し可能になるよう構成されてよい。

10

好適な実施形態において、吐出口 10 は、取り外し可能なタップ 34、35 またはバルブ 37、39 を有してよく、これにより、液体 8 は、取り外し可能なキャップ 32、またはバルブ 37、39 を取り外すことにより、吐出口 10 を介して直接アクセスされることができ、またはタップ/バルブ 34、35、37、39 により直接吐出されることができる。

【 0 0 4 6 】

図 11a から図 11c、および図 12a から図 12c に例示されるように、取り外し可能なバルブ 37 は、開放されており、可撓性バッグ(不図示)の吐出用出口 10 上に取り付けられるようさらに配置される端部 82 を有する管状部材 80 を有し、これにより、可撓性バッグの内容物を管状部材 80 内部に流入させる。

20

管状部材 80 の内部は、横行(transverse)壁 84 を有し、この横行壁 84 は、可撓性(柔軟性)ダイヤフラム 86 および吐出開口 88 を含み、この吐出開口 88 は、通常、可撓性ダイヤフラム 86 により閉止される。壁はまた、壁 84 の外側上に側方に延長し、可撓性ダイヤフラム 86 に接続されるレバー 90 を含み、このレバーにより、可撓性ダイヤフラム 86 を、可撓性ダイヤフラム 86 が吐出開口 88 を密封状態で閉止して内容物がバッグから出ることを阻止する位置と、可撓性ダイヤフラム 86 が吐出開口 88 から取り除かれてバッグの内容物が出ることを許容する位置との間で変位させる。レバー 90 は、可撓性ダイヤフラム 86 に、可撓性ダイヤフラム 86 がレバー 90 の操作によりこれら 2 つの位置の間で動作可能であるよう、接続される。

30

管状部材 80 の開放端は、吐出用出口 10 に、ネジ式接続で取り付けられるよう配置される。例えば、開放端部 82 の内壁は、吐出用出口 10 の外壁上の対応するネジ(thread)と係合可能であるように配置されるネジを有する。

【 0 0 4 7 】

図 11a から図 11c を参照して、取り外し可能なバルブ 37 は、吐出用出口 10 に直接取り付けられる。しかしながら、図 12a から図 12c において、取り外し可能なバルブ 39 は、2 つの管状セクション 39a、39b を有する。管状セクション 39a は、可撓性ダイヤフラム 86、吐出開口 88、およびレバー 90 を含む壁 84 を備え、上記のレバー 90 に結合されるネジ式管状セクション 39b を介して、吐出用出口 10 に結合可能である。2 つのセクション 39a、39b は、スナップ式(snap-fit)接続により結合可能である。ネジ式の(threaded)管状接続片 39b を介して取り付け可能なバルブ 39a を有することで、図 11a から図 11b に例示される単一の(single piece)取り外し可能なバルブ 37 の実施形態と比較して、セクション 39a、39b をより容易に製造することができる。

40

【 0 0 4 8 】

他の実施形態において、パッケージ 2 は、少なくとも 1 つのハンドル 36 を備えてよい。ハンドル 36 は、カートン 4 の外壁の 1 つの内部に切り欠き(cut-out)として形成される手持ち用開口(hand opening) 38 により規定されてよい。カートン 4 は、対向するカートン外壁上に一对の手持ち用開口 38 を備えてよく、これにより、ユーザは、パッケージ 2 を両手で運搬することができる。

50

代替的にまたは追加的に、ハンドル 36 は、ストラップ状材料、例えば、ビニール、クロス(cloth)、またはロープで形成されてよい。ハンドル端部は、対向する外壁の端部に、図 4 に示すように、ハンドル 36 の本体がパッケージ 2 の端部上に延長するよう、取り付けられてよい。

【0049】

好適な実施形態によれば、カートン 4 の外壁 26 の 1 つは、第 2 の取り外し可能な領域 40 を有する。第 2 の取り外し可能な領域 40 は、第 1 のキャビティ 13 内に通じ(leads into)、これにより、バッグへのアクセス用開口を形成して、バッグを露出させ、以下に説明するように冷却目的でそれへのアクセスを提供する。

【0050】

取り外し可能な領域 24、40 は、取り外しプロセスを補助するミシン目(目打ち線)(perforations)42 を有してよい。取り外し可能な領域 24、40 は、外壁 22、26 のそれぞれの内に 1 つ、指用開口 54 を有する。これにより、取り外し可能な領域 24、40 を容易に把持することができ、したがって、取り外し可能な領域 24、40 は、取り外し可能な領域 24、40 を持ち上げて(lifting)、ミシン目 42 に沿って引き裂くことにより、取り外すことができる。

【0051】

特に図 4 に示されるように、取り外し可能な領域 24、40 は、ボール紙(ダンボール)(cardboard)の単一の外層を備え、取り外し可能な領域 24、40 真下のダンボールの内層は、取り外し可能な領域 24、40 に対応するそれぞれの切り欠き(cut-outs)25、41 を有し、これにより、取り外し可能な領域 24、40 を、ミシン目 42 に沿って容易に引き裂くことができる。切り欠き 25、41 は、それぞれの取り外し可能な領域 24、40 より僅かに小さく、これにより、カートン 4 の内壁がミシン目 42 を支持して、取り外し可能な領域 24、40 が不注意に引き裂かれたり、輸送または取り扱いの間に内側に倒れ込むことが防止される。

【0052】

図 1 および図 2 に例示されるように、追加的なミシン目 43 が、ダンボールの外層に提供されてよく、このミシン目 43 は、取り外し可能な領域 24、40 の間、およびくぼんだ(recessed)手持ち用部分および指用開口 54 の間でそれぞれ延長する。これらのミシン目 43 は、ユーザがダンボールの外層を破ってバックにアクセスさせ、これにより、バッグは、別個の吐出装置(不図示)内に挿入されることができ、または代替的に、バッグが取り除かれて、パッケージ 2 をリサイクル目的のため分離することができる。

【0053】

パッケージ 2 は、図 6 および図 7 の実施形態に示されるように、液体を吐出する装置 46 とともに使用されるよう構成されてよい。この装置 46 は、バッグの内容物を冷却または加熱するよう配置される、冷却または加熱手段 50 を有する。装置 46 は、パッケージを受容する構造 48 を有する。

冷却または加熱手段 50 は、第 2 の取り外し可能な領域 40 が取り外され、パッケージ 2 が構造 48 に受容される際に、パッケージ 2 の第 1 のキャビティ 13 内に突出するよう構成される隆起した(raised)冷却または加熱部分 50 を有する。これにより、液体 8 で満たされた(filled with)バッグは、バッグの内容物に直接接触して効率的に冷却または加熱する、隆起した冷却または加熱部分 50 の形状に適合することができる。

好適な実施形態において、隆起した冷却または加熱部分 50 は、ドーム状の形状を有する。さらなる(追加的)隣接する外壁 26 真下のカートン 2 の内層内の切り欠き 41 は、取り外し可能な領域 40 より小さい直径を有して、隆起した冷却または加熱部分 50 に接触する際に、パッケージ 2 の重量を支持することを補助する。

【0054】

構造 48 は、吐出口 10 が例えばカウンタートップ(counter-top)等の表面上方に離隔し、容器(vessel)がバルブ 34 真下に便宜に位置して、吐出される液体 8 を捕らえることができるように、パッケージ 2 を保持するよう配置される。構造 48 は、傾斜した頂面 4

10

20

30

40

50

9を有してよく、これにより、パッケージ2が上記頂面49に受容された際に、パッケージ2の吐出用出口端部が反対側端部より低くなり、バッグの内容物が吐出用出口端部で安定し(settle at)、これにより、追加的な操作なしに、内容物がパッケージ2から流れ出るのを補助することができる。

【0055】

装置46の例示的使用において、ユーザは、第1および第2の取り外し可能な領域24、40の指用開口54に指または親指を挿入して、ミシン目42に沿って引き裂き、これにより、取り外し可能なキャップ32により閉止されている第2のキャビティ20内の吐出口外端18、および第1のキャビティ13内のバッグの双方を露出する。取り外し可能なキャップ32は、バルブ34によって置き換えられてよい。図5に示されるように、ユーザはその後、パッケージ2から直接液体8を吐出することができるが、まず手持ち用開口38および外壁26の端部上のくぼんだ手持ち用部分44によりパッケージ2を把持し、およびパッケージ2を傾け(持ち上げ)(tipping)、これにより、液体8は、重力の作用により、吐出口外端18から流れ出る。

【0056】

本発明の他の実施形態によれば、液体8を吐出する装置56が提供され、この装置56は、パッケージ2の吐出用出口10を介してパッケージ2に接続可能であるポンプ手段(不図示)を有する。装置56は、ポンプ手段により引き出される(drawn)液体8を吐出する吐出用出口58と、パッケージ2、吐出用出口58、およびポンプ手段の少なくとも1つを収容するよう構成される筐体(enclosure)60とを有する。

筐体60は、ドア62とともに配置されてよく、ドア62は、開閉可能で、パッケージ2の取り外しおよび挿入を許容する。少なくとも1つのパッケージ2は、筐体60の下方部分に収容され、吐出用出口58は、装置56の上方部分にあって、縦型(upright)構造を形成する。こうした縦型構造は、装置56をフロア取り付け可能(floor-mountable)にする。好適な実施形態において、装置56は、自立型(free-standing)であってよい。

【0057】

装置56の例示的使用において、ユーザは、指を指用開口54に挿入し、取り外し可能な領域24を把持し持ち上げ、ミシン目に42に沿って引き裂くことにより、取り外し可能な領域24を容易に取り外し、これにより、吐出口外端アクセス領域を露出させることができる。ポンプ手段は、筐体60内部から延長してよいホース(不図示)を有してよく、このホースは、取り外し可能なキャップ32(または一体化されたバルブ35または取り付け可能なバルブ34を有する取り外し可能なキャップ)が取り外された際に、吐出口10内に挿入されて、バッグからポンプ手段により引き出された液体8を、装置56の吐出用出口58へ供給する。パッケージ2はその後、ドア62を介して、筐体60内部に設置されてよい。液体8は、吐出前に、所望により、加熱または冷却されてよい。

【0058】

図9は、ダンボール材料により形成されるカートン4のブランク(blank)64の一例を示す。カートン4は、折り目(fold lines)68に沿ってブランク64を折り曲げ、フラップ(flaps)70に接着することで、形成される。点線は、取り外し可能な領域24、40を規定するミシン目42を表す。図9に示すように、隣接する外壁22は、一对のフランジ(flanges)72、74を有し、フランジ72、74のそれぞれは、隣接する外壁22の対向する端部から延長する。フランジ72の1つは、折り曲げ可能であって、他のフランジ74のスロット78内に固定可能であり、フランジ72の部分が隣接する外壁22と平行でありかつ離隔することで第2のキャビティ20を規定するように固定可能なタブ76を有する。当業者であれば、これは上記のカートン4のブランクの例示であり、このブランクの多数の実施形態がこうしたカートン4を生産するよう構成され得ることが理解されるであろう。

【0059】

上記では本発明の多数の実施形態が説明されたが、上記は例示としてのみ説明されたものであって、限定的に説明されたものでないことが理解されるであろう。当業者であれば

10

20

30

40

50

、本発明の要旨および範囲から逸脱することなく、形式および詳細における多様な変更をなしえることは明らかである。従って、本発明は、上記で説明された例示的实施形態のいずれによっても限定されるべきではない。

【 0 0 6 0 】

本明細書および添付クレームを通して、その内容が要求するものでない限り、用語「備える(comprise)」および例えば「備える(comprises)」および「備えている(comprising)」等の変形は、記載される数値またはステップ、または数値またはステップの群を含み、あらゆる他の数値またはステップ、または数値またはステップの群を排除するものでないことが理解されるであろう。

【 0 0 6 1 】

本明細書中における、あらゆる先行刊行物（またはそれに由来する情報）、または公知のあらゆる事項への参照は、当該先行刊行物（またはそれに由来する情報）または公知の事項が、本明細書が関連する技術分野における周知慣用技術の一部を構成するとの確認、自認、またはあらゆる形式での示唆と解されず、また解されるべきでない。

10

20

30

40

50

【図面】
【図 1】

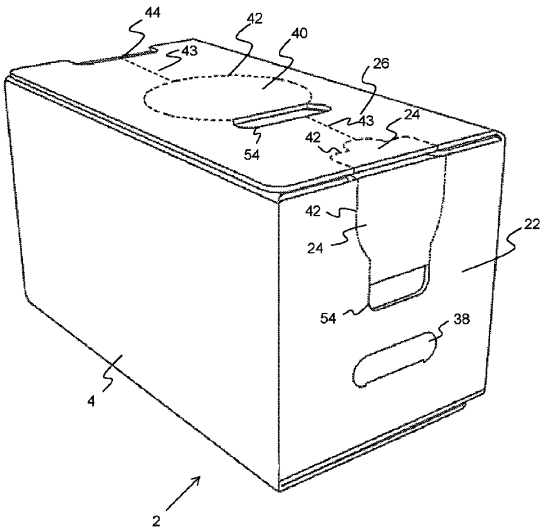


Figure 1

【図 2】

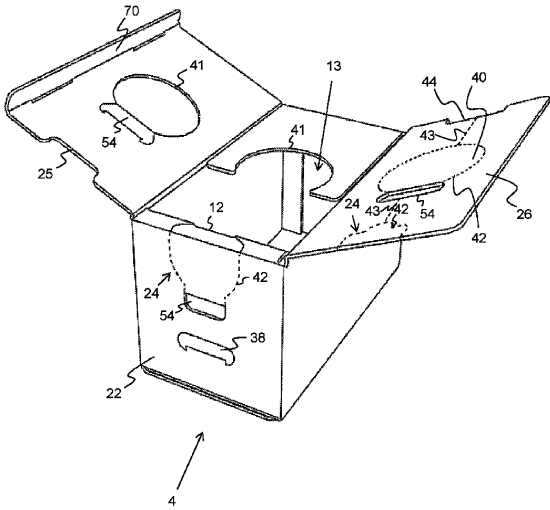


Figure 2

【図 3】

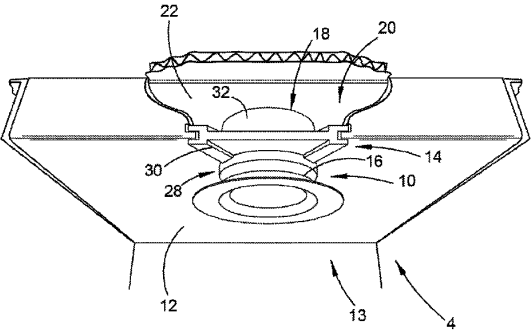


Figure 3

【図 4】

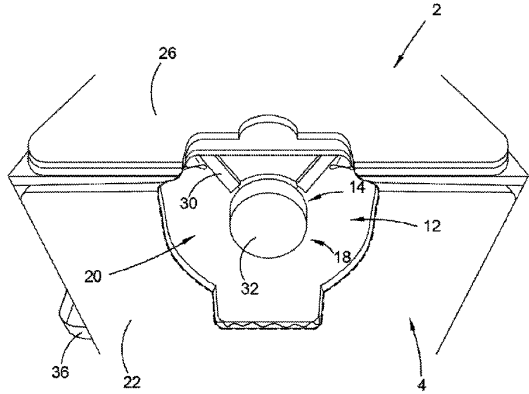


Figure 4

10

20

30

40

50

【図 5】

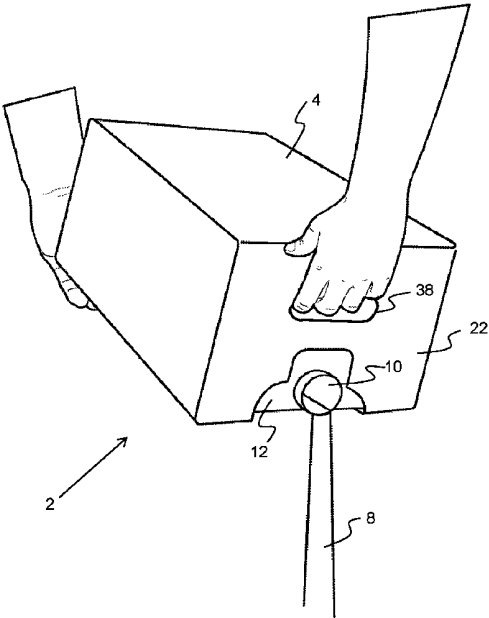


Figure 5

【図 6】

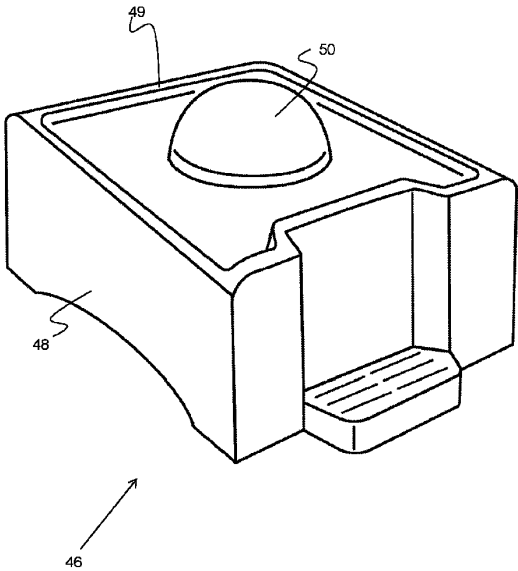


Figure 6

【図 7】

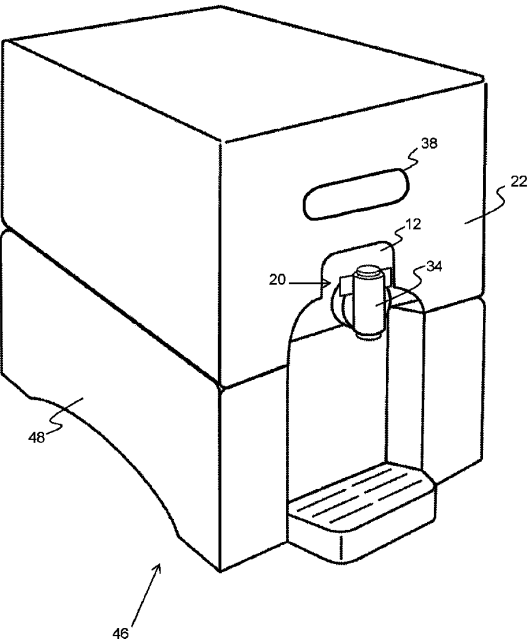


Figure 7

【図 8】

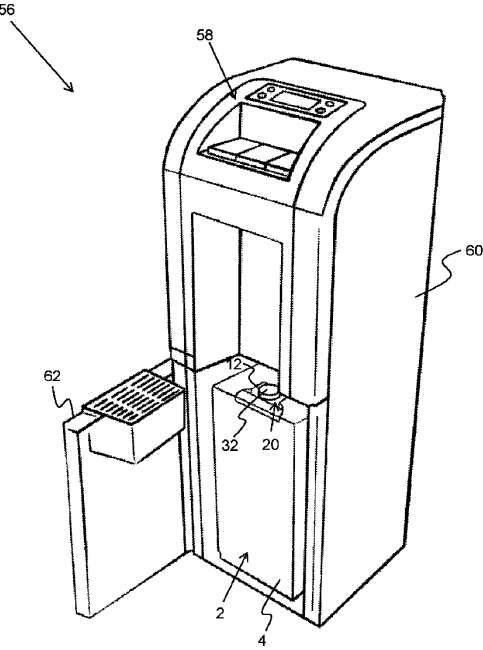


Figure 8

10

20

30

40

50

【図 9】

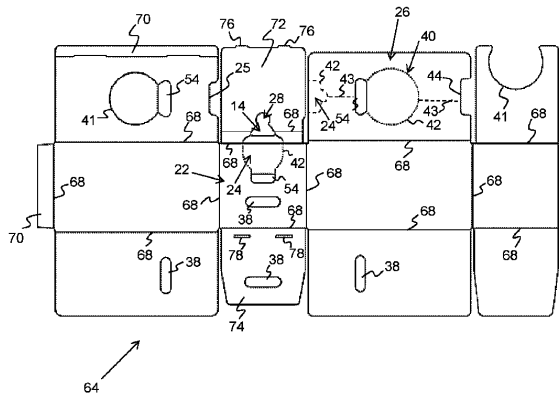


Figure 9

【図 10】

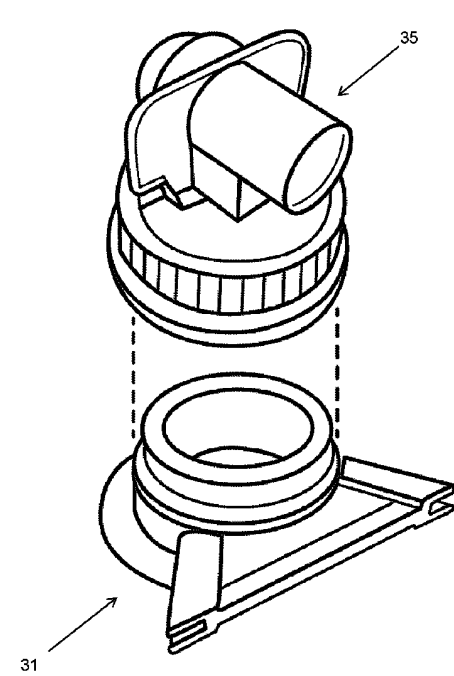


Figure 10

【図 11 a】

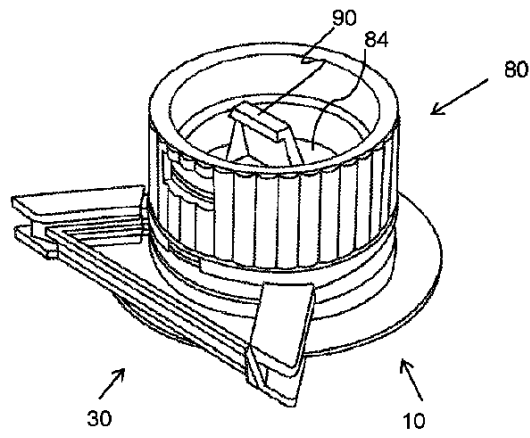


Figure 11a

【図 11 b】

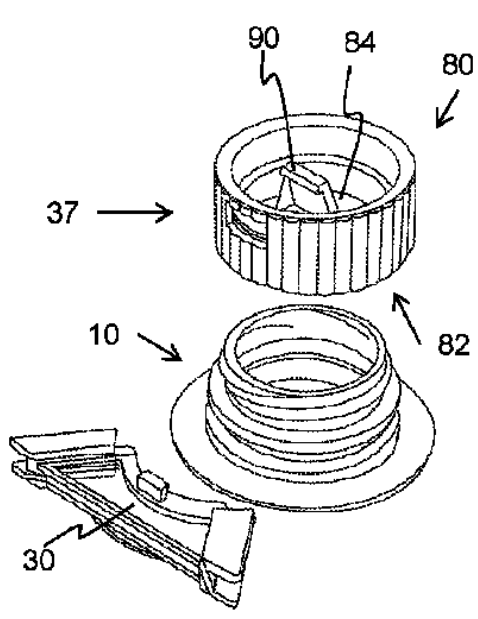


Figure 11b

10

20

30

40

50

【 図 1 1 c 】

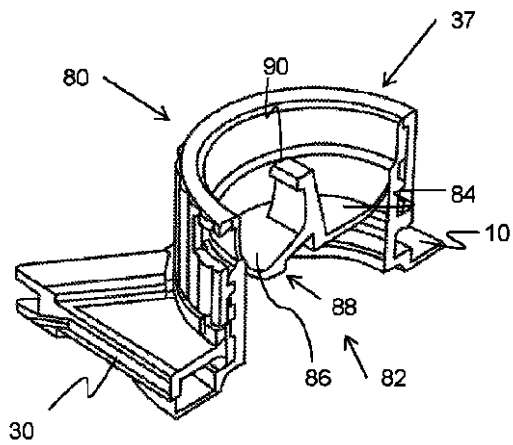


Figure 11c

【 図 1 2 a 】

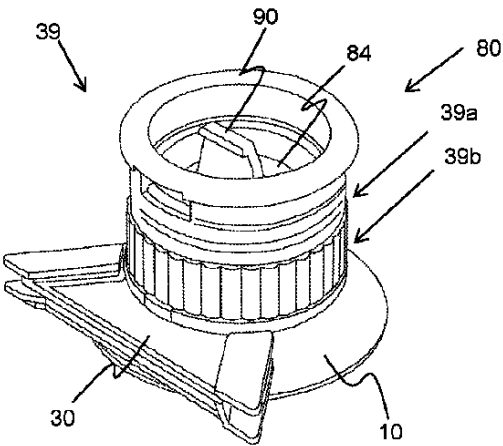


Figure 12a

【 図 1 2 b 】

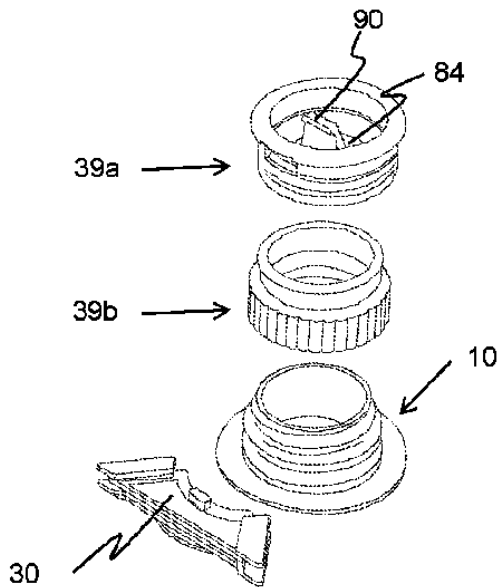


Figure 12b

【 図 1 2 c 】

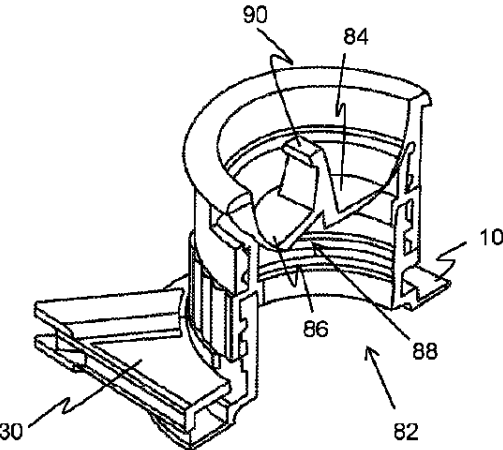


Figure 12c

10

20

30

40

50

フロントページの続き

3、ブラックロック ピーオーボックス 662

審査官 小川 克久

- (56)参考文献 米国特許出願公開第2015/0041494(US, A1)
特表2010-526738(JP, A)
特開昭60-110650(JP, A)
特開2015-030519(JP, A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
B65D 77/06